

4/12 10:00~

経済水道委員会

説明資料

名古屋城木造天守の昇降技術に関する
公募について

令和4年4月12日
観光文化交流局

目 次

頁

1	目的	1
2	概要	1
3	特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議	4
4	名古屋市障害者団体連絡会	6

1 目的

公募によりできるだけ多くの方が使用できる昇降技術を募り実用化することで、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立を実現

2 概要

(1) 主な条件

- ・少なくとも大天守1階に昇ることを必須とし、可能な限り上層階まで昇ることができること
- ・大天守の柱、梁を傷めないこと

(2) 公募への高齢者、障害者等の参画

令和2年の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の改正において、歴史的建造物を再現する場合等におけるバリアフリー整備の在り方について、高齢者、障害者等の参画の下検討が行われるよう、必要な措置を講ずることとされた趣旨を鑑み、提案された昇降技術に対し、高齢者、障害者等からの意見を聴取し、技術対話でその意見を反映

(3) 審査

ア 審査基準

区 分	内 容
最低要求水準	満たさなければ審査対象外となる公募参加のための条件
加点要求水準	よりふさわしい昇降技術を選定するための採点基準

イ 主な審査項目

区 分	主な審査の視点
実現性	開発、製造、導入の体制、必要な許認可取得
安全性	利用時の安全性確保のための対策、木造天守自体の防災・安全性に支障を与えない対策
価格	導入費用・維持管理費用の抑制
バリアフリー	移動の保障と使いやすさ
史実に忠実	木造天守の外観や内観を可能な限り損なわない工夫
運用	導入後の維持管理・サポート体制、及び製品改善・運用改善の仕組み

ウ 審査項目バリアフリーの内容

区 分	内 容
最低要求水準	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも大天守1階に昇降ができること
加点要求水準	<ul style="list-style-type: none"> ・利用対象者の範囲が広いこと ・誰もが簡単に使えること ・可能な限り健常者の移動と同じような時間で移動できること ・多人数による反復した利用が可能であること ・可能な限り健常者の移動経路を妨げず共存した経路であること ・大天守のより上層階まで上がれること ・怖い思いをしないで乗れること ・他人の助けを借りることなく昇降ができること

エ 審査方法

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の有識者である評価員が、提案技術に対して、書類審査及びプレゼンテーション審査を実施 ・最低要求水準を満たした提案技術に対して、加点要求水準により評価を行い、その評価に基づいて昇降技術を選定

(4) スケジュール

区 分	内 容
令和4年度	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>4月 ～ 6月</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>約4か月</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>公募開始</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>7月 ～ 9月</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>約5か月</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>質問回答</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>10月 ～ 12月</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>公募期間(約9か月)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>提案書の提出期限</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>1月 ～ 3月</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>約5か月</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>提案技術に対する高齢者・障害者等の意見聴取</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>10月 ～ 12月</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>約5か月</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>技術対話</p> </div> </div>
令和5年度以降	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>審 査</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>最優秀者選定(1者)</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>協 議</p> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>パリアフリーの方針を 全体計画に反映</p> </div> <div style="font-size: 2em;"> <p>← ↓</p> </div> </div>
令和5年度以降	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>基本協定締結</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>昇降技術開発</p> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>技術開発に対する高齢者・障害者等の意見聴取</p> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>↓</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>設計及び開発(試作機含む)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>想定開発費用 上限8,000万円</p> </div> </div>
令和5年度以降	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>昇降技術導入</p> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%;"> <p>・実機製作及び木造天守に導入</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>想定導入費用 上限2億円</p> </div> </div>

3 特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議

(1) 構成員

(五十音順、敬称略)

氏名	職名	備考
磯部 友彦	中部大学教授	交通計画 福祉のまちづくり
小野 徹郎	名古屋工業大学名誉教授	建築構造学
川地 正数	川地建築設計室主宰	建築生産
小濱 芳朗	名古屋市立大学名誉教授	建築構造学
小松 義典	名古屋工業大学大学院准教授	環境工学
高橋 儀平	東洋大学名誉教授	福祉のまちづくり
中嶋 秀朗	和歌山大学教授	システム工学
西形 達明	関西大学名誉教授	地盤工学
野々垣 篤	愛知工業大学准教授	建築歴史 意匠
麓 和善	名古屋工業大学名誉教授	建築史 文化財保存修理
堀越 哲美	愛知産業大学学長	環境工学
三浦 正幸	広島大学名誉教授	日本建築史 文化財学
矢野 和雄	矢野法律事務所弁護士	法律 人権
山田 陽滋	名古屋大学大学院教授	機械安全 ロボティクス
渡辺 崇史	日本福祉大学教授	福祉工学

注 職名は令和4年3月29日特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議開催時点のもの

(2) 直近の会議開催日 令和4年3月29日

(3) 公募の実施方法についての主な意見

区 分	意 見
審査項目	<ul style="list-style-type: none">・バリアフリーの審査項目については、それぞれの配点に軽重をつけたほうが良い・審査項目で、アクセシビリティ（移動の保障）とユーザビリティ（使いやすさ）が同列で並べられているが、まず優先すべきはアクセシビリティであるので、そういった観点で整理をした方が良い・評価は「安全性」と「輸送能力」の二点が重要と思われるため、そういったことが確認できる資料も提出させるべきではないか・技術の安全性についても考えていかないといけない・耐用年数や設備更新時の木造天守への影響などを含めた維持保全計画も提案時に出させた方が良い・「史実に忠実」において、「柱や梁などの主架構を変更しない」という条件が入っており、加点要求水準は「外観や内観を損なわない工夫」や「木材の保護」で十分なので、史実に忠実な復元に対応できる
利用者の参画	<ul style="list-style-type: none">・「利用者」が事務局を通して意見を言うことになっているが、評価に障害者が参加できる仕組みとするべきではないか・高齢者、障害者等の参画については、形だけの参画ではなく、実質的なものにしなければならない・技術に対する高齢者・障害者等の意見聴取の時期は、提案書の提出期限前に早めるのが良いのではないか
公募条件	<ul style="list-style-type: none">・最低要求水準として大天守1階への昇降を求めているが、できる限り5階まで昇降できる技術を求めているということが伝わらないのではないか・史実に忠実な復元をするためにどのような条件や制約が出てくるのか、応募者にわかるようにすべき・「少なくとも大天守1階に昇降できる」や「柱や梁などの主架構を変更しない」という条件だけで、求めている昇降技術がどんなものであるか公募参加者に伝わるのか

区 分	意 見
公募条件	<ul style="list-style-type: none"> ・木造天守の設計と昇降技術の開発の検討を一緒にできる体制を整えて進め、そういった体制を整えていることを、公募参加者にもわかるようにしたうえで公募を実施してほしい
公募スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・昇降技術がある程度決まる時期と、全体計画をまとめる時期がほぼ同じ時期になっているが、そのスケジュールで大丈夫なのか
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・階段体験館で実物大の階段模型を作ったことで、バリアフリーの視点での課題もわかってきたところもあるので、今後の昇降技術の開発においても活用していくといい ・開発の段階でも、バリアフリー検討会議として意見を言っていけるようにしてほしい

(4) 公募実施に対する総括

今回の意見を踏まえ、必要な修正等を加えた上で、公募を進めていかれたい

4 名古屋市障害者団体連絡会

(1) 直近の会議開催日 令和4年4月8日

(2) 公募の実施についての主な意見

- ・公募はやってみないとわからないが、やることについては賛成
- ・やってみなければわからないのでやってみるのはよい
- ・賛成。公募してみればよい
- ・このような厳しい条件で公募参加者がいるか心配だが、なんとか業者を探してほしい
- ・積極的な賛成はしていないが、より上層階へ行くということについては挑戦してほしい
- ・採点基準が抽象的でわかりにくい、(少なくとも)1階(という表現)が気になるが、反対しているわけではない
- ・少なくとも1階だけでなく、最上階という表現を明文化してほしい
- ・公募全体のスケジュールが見えてないし、税金の無駄遣いになるので公募実施は反対
- ・公募実施についてはそのものが反対